

第4章

「継続」の取組

視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保

取組項目	冬みちプラン 2018 掲載ページ
(1)―①―1 除雪水準の確保に向けた計画的な除排雪の実施（幹線道路）	(p. 46)
(1)―①―2 朝の通勤・通学時に合わせた夜間作業の実施（幹線道路）	(p. 46)
(1)―①―3 幹線道路（車道）の明け方降雪に対する対応 ➤ 優先的に対応する路線を定め計画的に作業する。	(p. 46)
(1)―①―5 バス事業者との連絡体制の実施 ➤ バスの運休情報を速やかに把握するなど、連絡体制を確保する。	(p. 46)
(1)―①―6 幹線道路と幹線道路の交差点排雪の実施	(p. 46)
(1)―①―7 幹線道路と生活道路の交差点排雪の実施 ➤ 自動車と歩行者の双方の安全を確保するため、交差点の排雪を実施する。	(p. 46)
(1)―①―8 国道管理者と連携した作業の効率化	(p. 46)
(1)―②―9 除雪水準の確保に向けた計画的な除雪の実施（生活道路）	(p. 50)
(1)―②―11 道幅が狭い生活道路の除雪対応 ➤ 地域の実態に応じて対応する。	(p. 50)
(1)―②―12 生活道路におけるザクザク路面の対応 ➤ 気象予報やパトロール結果等を踏まえて対応する。 (取組項目10「生活道路の除排雪方法変更に向けた検討」で検討を継続)	(p. 50)
(1)―②―13 効果的な拡幅除雪の実施	(p. 50)
(1)―②―14 排雪支援制度による地域と協力した生活道路の排雪	(p. 52)
(1)―②―15 パートナーシップ排雪制度の見直しを踏まえた運用 ➤ 地域の費用負担額を抑えた新たな選択肢を加えた制度を運用する。	(p. 52)
(1)―②―16 パートナーシップ排雪制度に関する地域の合意形成への支援 ➤ 制度の理解や協力を促すチラシの作成・配布等を支援する。	(p. 52)
(1)―②―17 パートナーシップ排雪制度の夜間作業への一部切替 ➤ 作業の効率化に向け、地域の状況に応じて交通量が少ない夜間作業へ切り替えて実施する。	(p. 52)
(1)―②―19 見通し確保に向けた生活道路の交差点排雪の実施	(p. 52)
(1)―③―20 児童の安全確保に向けた通学路の除雪の実施	(p. 53)
(1)―③―21 道路状況に応じた通学路排雪の実施	(p. 53)
(1)―③―22 スクールゾーン実行委員会などと連携した児童の安全確保につながる取組の実施	(p. 53)
(1)―④―23 除雪水準の確保に向けた計画的な除雪の実施（歩道）	(p. 54)
(1)―④―24 朝の通勤・通学時に合わせた夜間作業の実施（歩道）	(p. 54)

(1)―④―25 幹線道路（歩道）の明け方降雪に対する対応 ➤ 優先的に対応する路線を定め計画的に作業する。	(p. 54)
(2)―①―26 車道の路面管理基準の確保に向けた効果的・計画的な凍結防止剤の散布	(p. 55)
(2)―①―27 道路種別や天候の急変などに応じた車道の凍結路面对策の実施 ➤ 渋滞の緩和や交通事故の抑制に向け、凍結防止剤等の散布を実施する。	(p. 55)
(2)―②―28 歩行環境の改善に向けた除雪作業や滑り止め材などの計画的な散布	(p. 56)
(2)―②―29 歩道の凍結路面对策の強化 ➤ 都心部や地下鉄駅周辺で滑り止め材の散布強化や氷板除去を実施する。	(p. 56)
(2)―②―30 歩道における効果的な滑り止め材の散布 ➤ ウィンターライフ推進協議会と連携し効果的な散布を継続的に実施する。	(p. 56)
(2)―②―31 歩道の凍結路面对策に関する技術的な検討 ➤ 研究機関などと連携し新たな凍結路面对策に関する技術的な検討を行う。	(p. 56)
(2)―③―32 ロードヒーティングに替わる路面管理手法の検討	(p. 56)
(2)―③―33 安価な熱源の活用に向けた検討 ➤ ロードヒーティングの改修にあわせて、比較的安価な熱源であるガスの活用を検討する。 ➤ 未利用エネルギーの活用に向け、民間技術の動向を把握しながら効果的な活用方法を検討する。	(p. 56)

視点 2 除排雪作業の効率化・省力化

取組項目	冬みちプラン 2018 掲載ページ
(1)―①―45 「i-Snow」への参画によるICTなどの先進技術の共有	(p. 58)
(1)―②―46 メリハリをつけた除排雪の実施 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 気象と除排雪作業が交通に与える影響等を分析し、除排雪を実施する。 	(p. 59)
(2)―①―48 雪堆積場への公共用地及び民有地の活用	(p. 59)
(2)―①―49 排雪作業の効率化につながる雪堆積場の確保 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 新たに活用可能な土地の選定や、民活型雪堆積場の提案要件の見直しを実施する。 	(p. 59)
(2)―①―50 雪堆積場の安定的な確保に向けた検討（民有地） <ul style="list-style-type: none"> ➤ 利便性の高い雪堆積場は、複数年利用が可能な制度の導入に向けた検討を実施する。 	(p. 59)
(2)―①―51 雪堆積場の安定的な確保に向けた検討（公共用地） <ul style="list-style-type: none"> ➤ 利便性の高い雪堆積場は、公共用地管理者と協議・調整を行い、安定的に利用する。 	(p. 59)
(2)―②―54 流雪溝の利用促進に向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用率の低い流雪溝は、管理運営協議会と連携して利用を促す。 	(p. 60)
(2)―②―55 流雪溝の更なる有効活用策の検討 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 取組 54 と連動し、検討を継続する。 	(p. 60)
(3)―①―56 地域内雪処理の推進 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 地域内の民有地や公共用地は、地域の雪置き場として活用を促す。 	(p. 62)
(3)―①―57 除雪作業における民有地活用の検討 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 活用可能な民有地については活用を継続する。 	(p. 62)
(3)―②―58 ルールを定めた上での公園の雪置き場としての活用	(p. 63)
(3)―②―59 雪置き場を考慮した公園づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 公園の再整備を行う際に雪置き場としての活用も考慮する。 	(p. 63)
(3)―②―60 雪置き場として学校のグラウンドや敷地の活用	(p. 63)
(3)―②―61 除雪作業における公共用地活用の推進 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 活用可能な公共用地に新雪除雪や路面整正、拡幅除雪等で寄せている雪を搬入する。 	(p. 63)
(3)―②―62 運搬排雪の雪置き場として公共用地の活用	(p. 63)

視点3 除排雪体制の維持・安定化

取組項目	冬みちプラン 2018 掲載ページ
(1)―①―63 道路維持除雪業務の継続	(p. 64)
(1)―①―64 経営の安定化につながる発注	(p. 64)
(1)―②―66 女性の除雪従事者の労働環境や働きやすさの向上につながる取組の支援	(p. 65)
(1)―②―67 土木系の女子学生を対象にした見学会などの開催	(p. 65)
(1)―②―68 建設業の人材確保に向けた支援事業の周知 ➤ 国や北海道などが実施する支援事業を取りまとめ、情報発信を実施する。	(p. 65)
(1)―②―69 建設業に就職を希望する人の入職につながる支援 ➤ 合同企業説明会等の開催を検討する。	(p. 65)
(1)―②―70 除雪オペレーターの運転免許取得にかかる一部助成	(p. 65)
(1)―②―71 除雪従事者の魅力向上につながる情報発信 ➤ 除雪作業のやりがい・市民生活への貢献などの情報を市民に発信する。	(p. 65)
(1)―②―72 除雪従事者や機械の確保に向けた運送事業者や関係機関との連携	(p. 65)
(1)―③―73 企業で保有・更新が難しい除雪機械の確保	(p. 66)
(1)―③―74 企業が保有する除雪機械の更新に対する支援 ➤ 市保有除雪機械の更新に伴う売り払い情報を提供する。	(p. 66)
(2)―①―75 作業経路などのナビゲーションシステムの導入 ➤ システム導入に向けた検討を継続する。	(p. 67)
(2)―①―78 定期的な休暇取得につながる仕組みの検討 ➤ 大雪時を除き、除雪従事者が定期的に休暇を取得できる仕組みを検討する。	(p. 67)
(2)―②―79 除雪機械の操作技術を学べる研修の実施 ➤ 冬に限らず夏においても、除雪機械の操作技術を学べる研修を実施する。	(p. 69)
(2)―②―80 除雪オペレーターの技術の継承 ➤ 技術継承の手法について検討を継続する。	(p. 69)

視点 4 雪対策における市民力の結集

取組項目	冬みちプラン 2018 掲載ページ
(1)―①―81 市民と行政の協力体制の構築に向けた情報発信 ➤ 除排雪に関する市民と行政の役割を明確化し、協力体制を構築する。	(p. 70)
(1)―①―82 砂まき活動の拡大に向けた取組の推進 ➤ 人通りの多い交差点を中心に砂箱を設置し、砂まき活動を実施する。	(p. 70)
(1)―①―83 「融雪施設設置資金融資あっせん制度」による支援	(p. 70)
(2)―①―84 担い手確保などによる福祉除雪事業の継続	(p. 72)
(2)―①―85 除雪ボランティアのコーディネートの実施 ➤ 除雪ボランティアを受けたい人と実施したい人をつなぐ機能を担う。	(p. 72)
(2)―①―87 除雪ボランティアに係る町内会活動への更なる支援に向けた検討 ➤ 新たな支援策について検討を継続する。	(p. 72)
(2)―②―88 除雪ボランティアの担い手確保に向けた広報 ➤ マスメディアや効果的な媒体などを活用して募集情報などを発信する。	(p. 73)
(2)―②―89 除雪ボランティア活動の普及に向けた広報 ➤ 様々な媒体を活用し、除雪ボランティア活動の事例紹介等を発信する。	(p. 73)
(3)―①―90 砂まき活動の促進につながるイベントの開催 ➤ 砂まき体験を盛り込んだ出前講座などを開催する。	(p. 74)
(3)―①―91 砂まき協力企業の拡大に向けたPR ➤ 砂まき協力企業の拡大に向け、活動状況のPRを実施する。	(p. 74)
(3)―②―92 ウィンターライフ推進協議会などと連携した転倒防止活動の実施	(p. 75)
(3)―②―93 冬のリスクから身を守るための留意点の周知 ➤ 転倒や落雪などのリスクに対する留意点を取りまとめ、周知する。	(p. 75)

視点5 雪対策に関する広報の充実

取組項目	冬みちプラン 2018※ 掲載ページ
(1)―①―94 「ルール順守」「マナー向上」につながる情報発信 ➤ 冬のくらしガイドなどの広報媒体を活用した広報を実施する。	(p. 76)
(1)―②―95 子供たちが雪と触れ合う文化を創造する取組の実施	(p. 77)
(1)―②―96 雪体験授業の充実 ➤ 雪体験授業の内容を充実させる。	(p. 77)
(1)―②―97 小学校における雪に関する授業の充実 ➤ 各教科・領域の内容とのつながりを持たせ、授業の充実を図る。	(p. 77)
(1)―②―98 小学校の教諭を対象としたニューズレターの定期的な発行・配布	(p. 77)
(1)―②―99 雪に関する授業に活用しやすい教材の開発	(p. 77)
(2)―②―101 地域と札幌市が直接意見交換を行う場として出前講座や地域懇談会などを開催	(p. 79)
(2)―②―102 除排雪作業への理解につながる見学会などを開催	(p. 79)
(2)―②―103 子どもたちが雪に関して学んだことを発表するイベントを開催	(p. 79)
(2)―③―104 悪質な路上駐車に対する実効性のある対応 ➤ 地域や警察と連携し、路上駐車に対して、実効性のある対応を実施する。	(p. 80)
(2)―③―105 「雪パト隊」の設置に向けた検討 ➤ 地域や警察と連携し、路上駐車に対して、実効性のある対応を実施する。	(p. 80)
(2)―③―106 除雪作業に対する理解や協力につながる工夫 ➤ 除雪機械や作業員が札幌市の作業であることが一目で分かる改善や工夫を行う。	(p. 80)

※取組詳細については、札幌市冬のみちづくりプラン2018掲載ページ参照のこと。